

報告

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果の概要について

令和元年8月26日
学校教育課

本年度の全国学力・学習状況調査の結果(教育局別)を下記のとおりお知らせします。

記

1 教育局別の状況

(1) 平均正答率

- 府内各地域の状況を教育局別の平均正答率で示しています。
- 各教育局別の平均正答率は、小学校、中学校ともに概ね全国平均を上回るかそれに近い値ですが、教科毎にみると一部にやや課題が見られます。

小学校	国語	算数
全国	63.8	66.6
京都府	66	68
乙訓局	67	70
山城局	63	67
南丹局	64	67
中丹局	69	69
丹後局	65	65

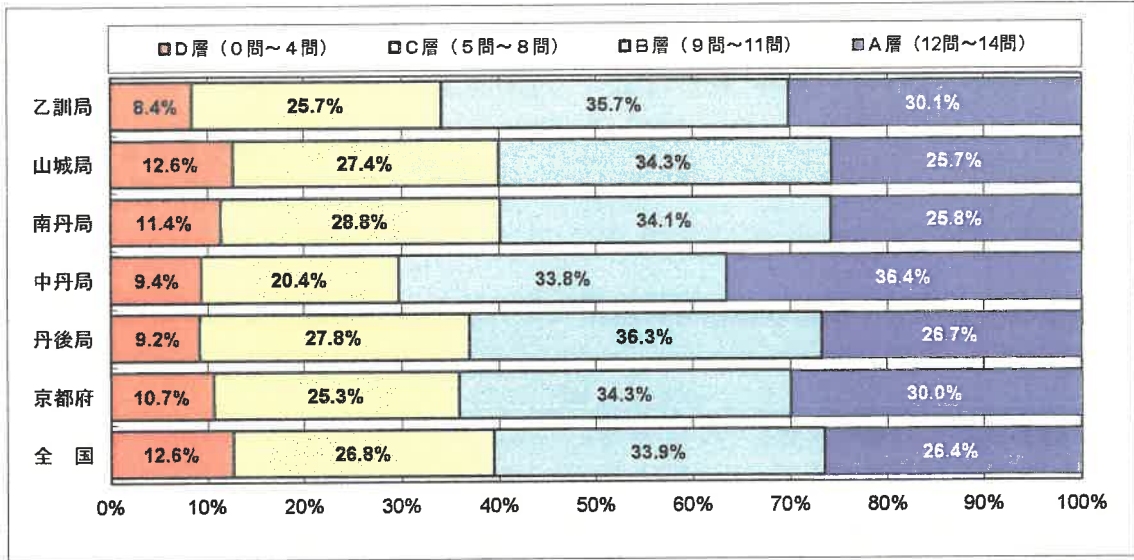
中学校	国語	数学	英語
全国	72.8	59.8	56.0
京都府	73	61	56
乙訓局	76	66	60
山城局	72	58	55
南丹局	72	61	54
中丹局	73	61	55
丹後局	76	63	57

(2) 児童生徒の学力状況(正答数分布状況より)

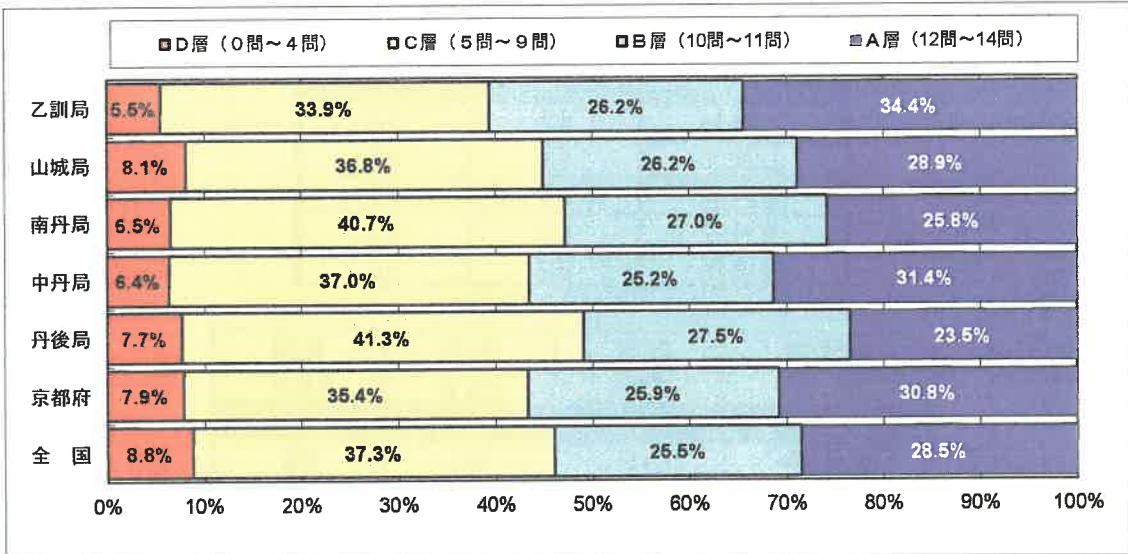
- 次の正答数分布状況グラフは、児童生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。
- 各教科・各年度の平均正答数以上の児童生徒をA層(上位)、B層(中上位)、平均正答数未満の児童生徒をC層(中下位)、D層(下位)にそれぞれ2分割して分析します。
例えば小学校国語の出題数は14問あり、全国平均正答数が8.9問です。したがって、0~4問がD層、5~8問がC層、9~11問がB層、12~14問がA層となります。

◆ 小学校第6学年正答数分布状況

ア 国語

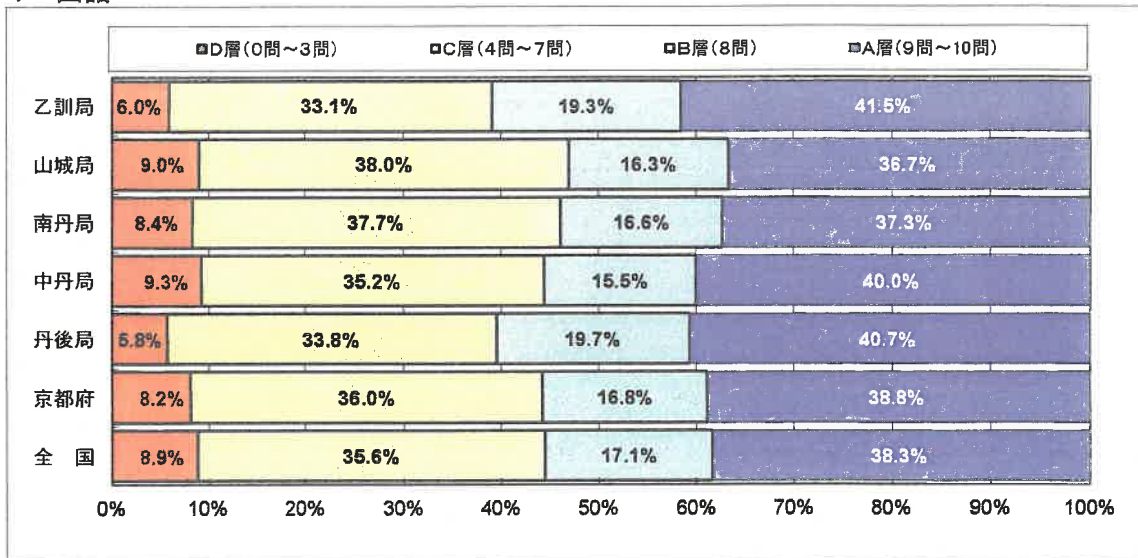


イ 算数

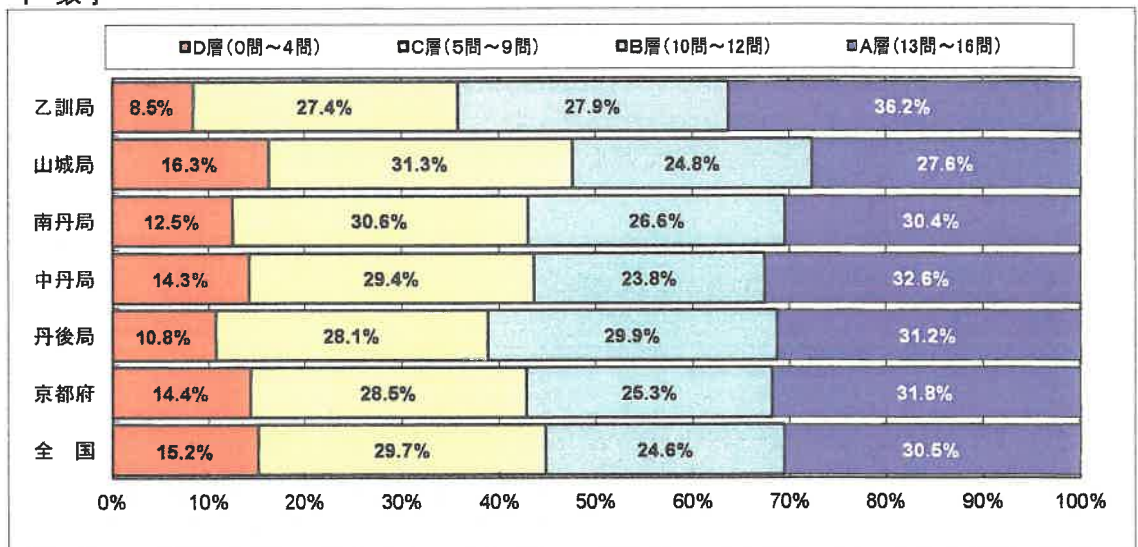


◆ 中学校第3学年の正答数分布状況

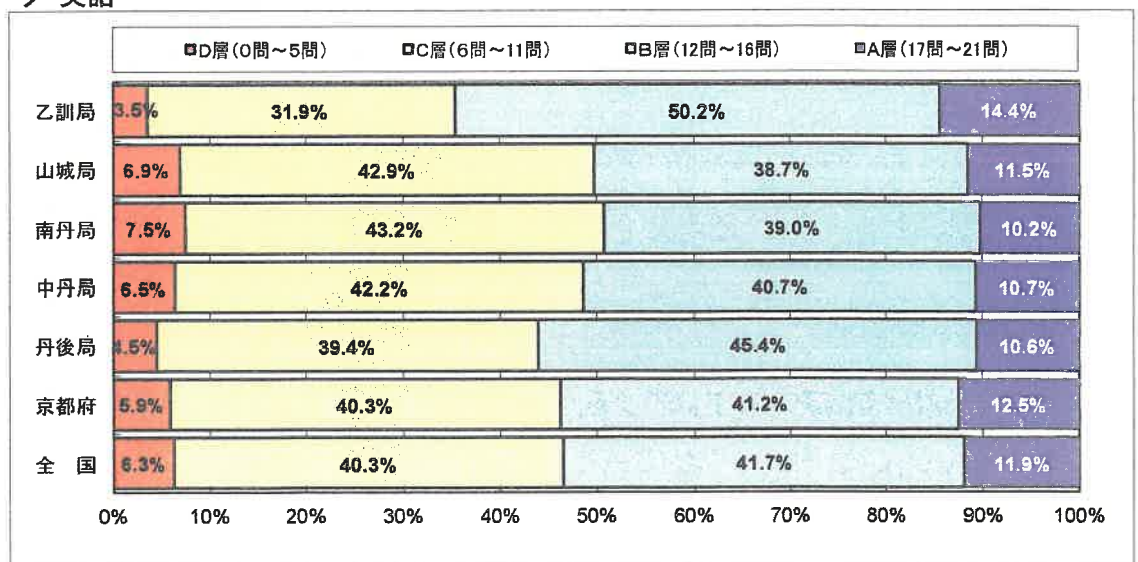
ア 国語



イ 数学

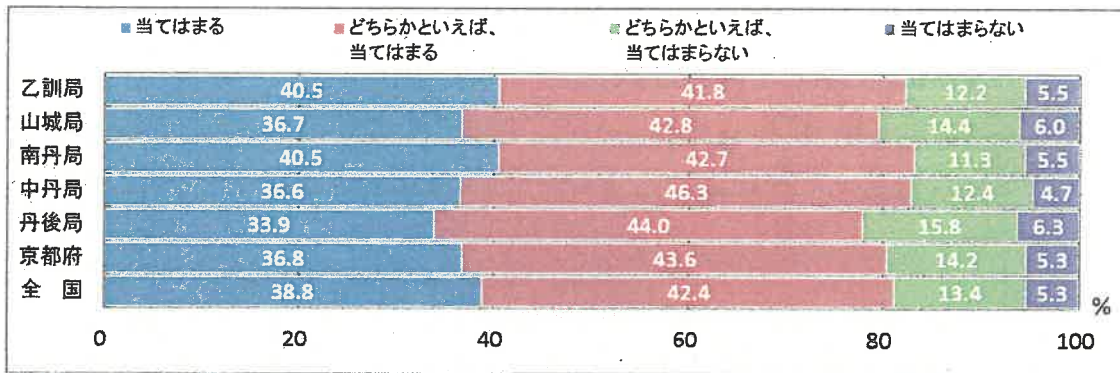


ウ 英語

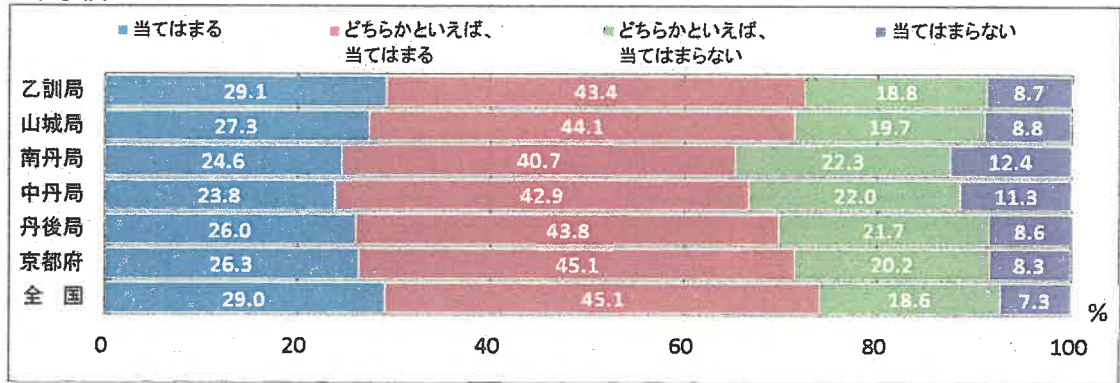


(3) 質問紙調査結果の概要
 <児童生徒に対する調査>

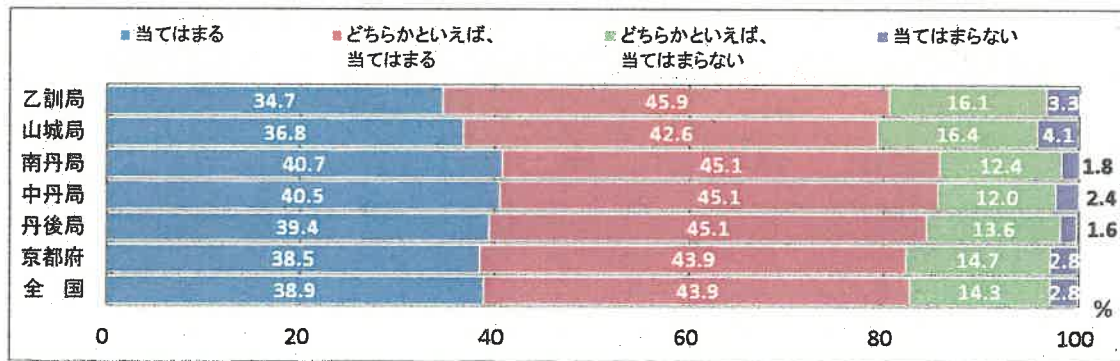
Q 自分には、よいところがあると思いますか。
 小学校



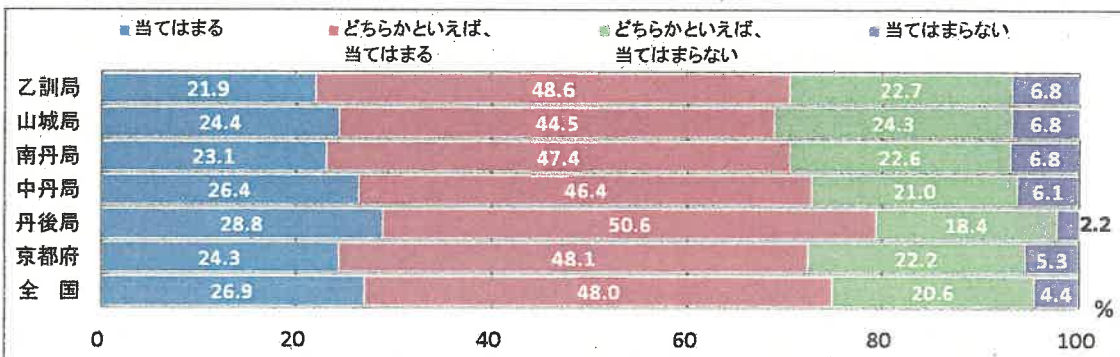
中学校



Q 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。
 小学校

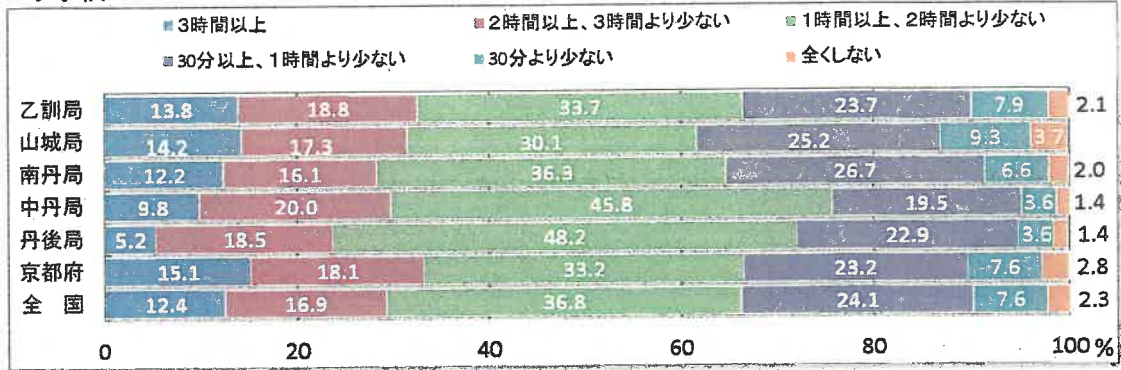


中学校

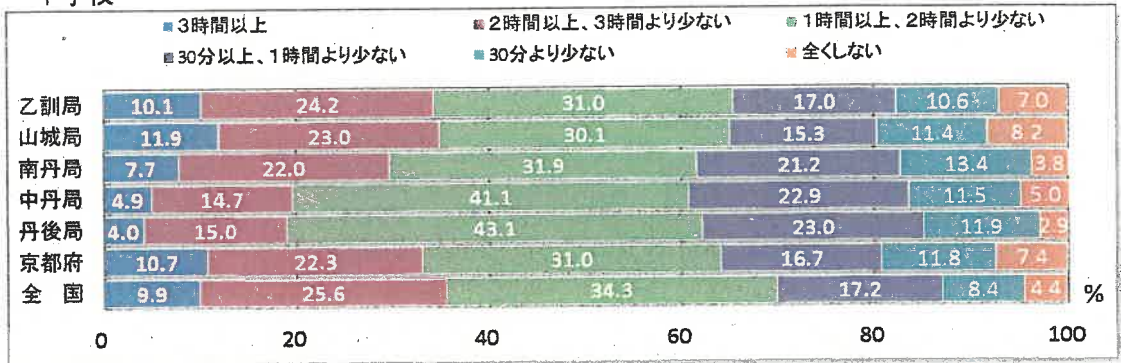


Q 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾や家庭教師含む)

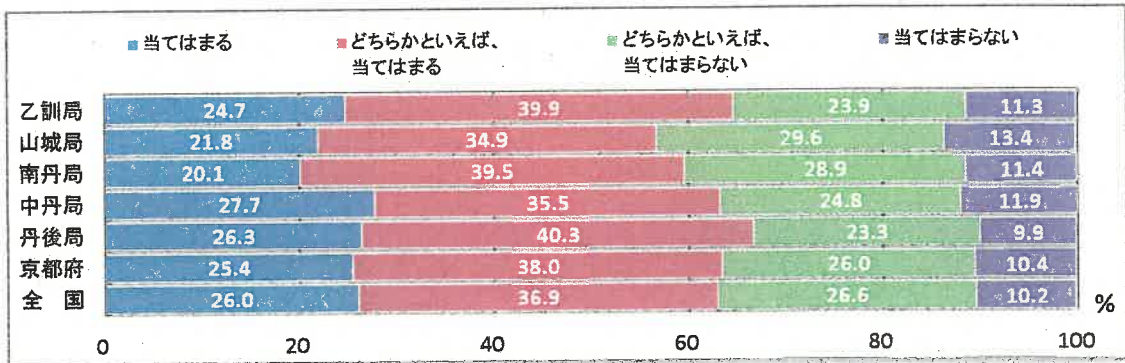
小学校



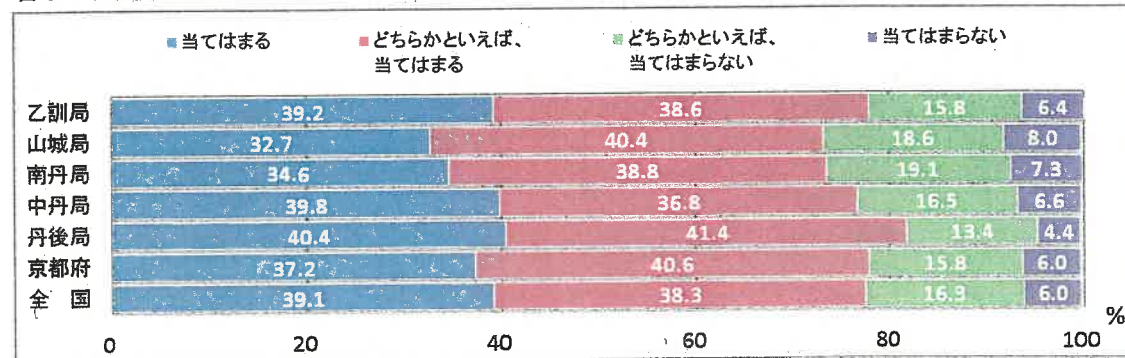
中学校



Q 1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。(中学校のみ回答)



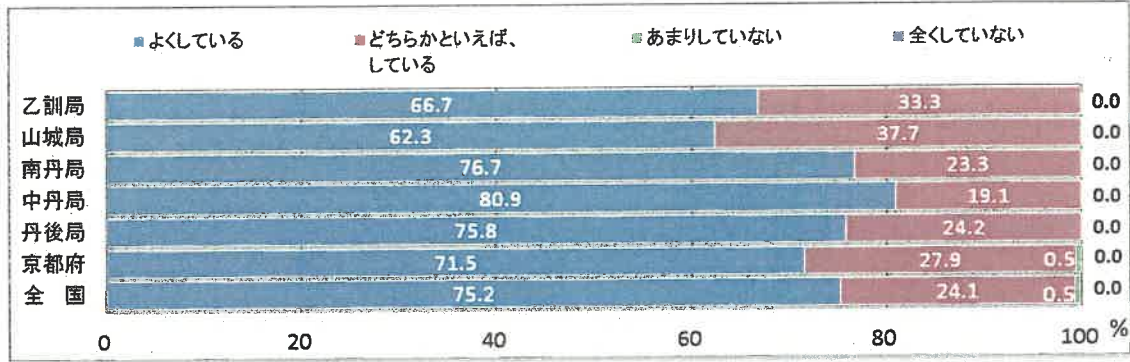
Q 1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか。(中学校のみ回答)



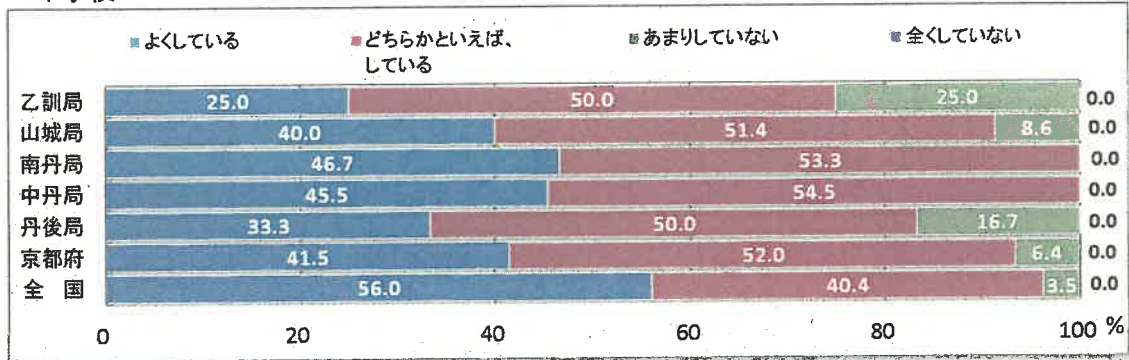
＜学校に対する調査＞

Q 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。

小学校

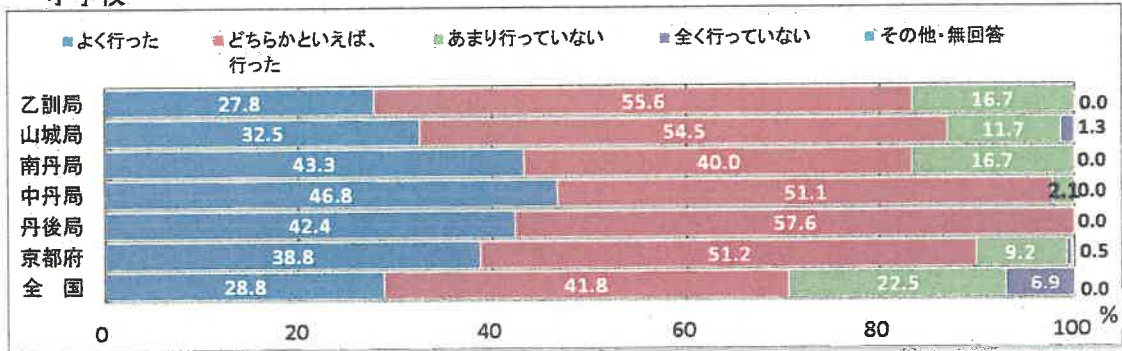


中学校

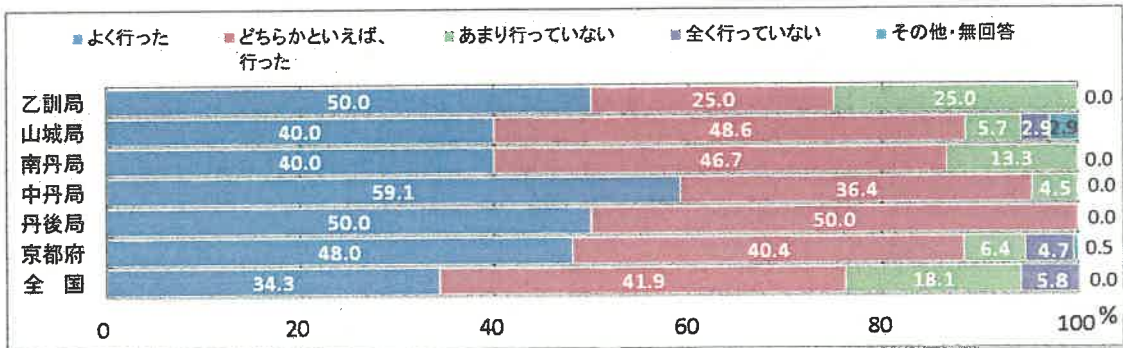


Q 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。

小学校

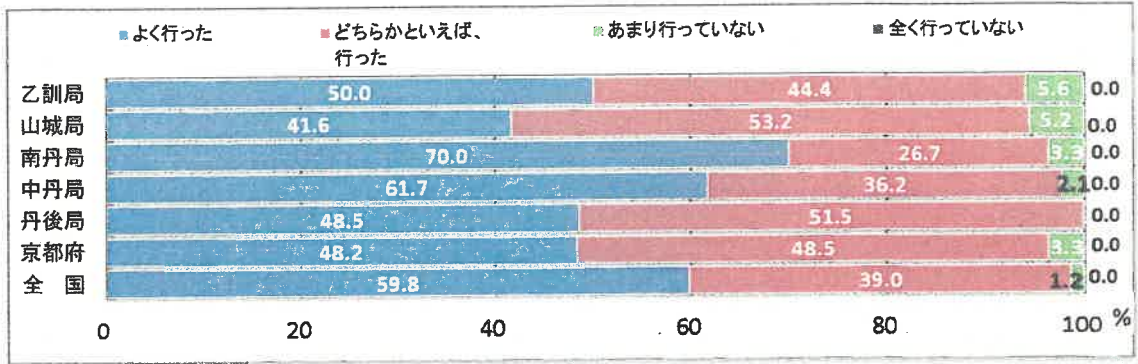


中学校



Q 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか。

小学校



中学校

